

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2020年8月17日

派遣決定番号

地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

| | | | |
|-------|--------------------------|-----------|--------------|
| 団体名 | 北秋田市 | 代表者名 | 津谷 永光 |
| 担当者部署 | 総務部 | 連絡先電話番号 | 0186-62-6606 |
| 担当者役職 | 主査 | 担当者氏名 | 佐藤 礼介 |
| | | 連絡先E-mail | |
| 住所 | O18-3392 秋田県北秋田市花園町19番1号 | | |

1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

| | |
|-----------------------------|---|
| アドバイザー | 岡村 久和 |
| 評価 | 大変よい |
| 上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に) | 本事業の申請を行った際は「北秋田市の魅力の探求と発信」をテーマに掲げたが、中でも今回のオンライン支援では「移住者獲得」にスポットを当て、ICTを活用した北秋田市におけるテレワークの可能性を探った。これにより、当市のような小規模である地方自治体であっても、移住者の獲得に向けた支援策や、必ずしも「移住」に促される関係人口を創出することで、地域の活性化を図ることができることを学ぶことができた。 |
| アドバイザーへの要望事項 | 「移住者獲得」や「観光活性化」に繋げるため当市の「特色」について見つめ直し、改めて当市のPR方法を検討するためのヒントを探していきたい。 |

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

| | 派遣日 | 開始時刻 | 終了時刻 | 内休憩時間(分) | 活動時間(分) |
|---------|--------------|--------|--------|----------|---------|
| 3-1. 活動 | 2020年8月11日 | 11時00分 | 14時00分 | 60 | 120 |
| 支援形態 | 支援・助言(オンライン) | | | | |

4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

| | |
|------|---------------------------|
| 掲載許可 | <input type="radio"/> 掲載可 |
|------|---------------------------|

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

| | | |
|--|---|-------------------------|
| 5-1. 支援を受けた対象者 | 属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】 | 人数 |
| | 職員 | 3人 |
| 5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果 | | |
| 事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい) | ① 各分野において北秋田市の「魅力」「特色」としてPRしている素材について改めて見つめ直すとともに、地元で暮らし人間が気付かない「北秋田市の魅力」を探求し、それらのPRの手法についても再検討を行う。 ② ①について、自治体だけでなく地域住民や企業等にも意識付けを行い、地域が一体となって取り組むことができる体制を整備する。 | |
| 支援により目指す成果(具体的にご記入下さい) | 上記の①・②を行うことにより、「北秋田市ファン」を獲得に向け、魅力発信の体制・方法を確立する。 | |
| アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい) | ・支援事業の第1回目は、北秋田市の移住・定住支援業務の現状を知っていただいたほか、新型コロナウイルスの蔓延により、首都圏の事業者の勤務形態の変化及び首都圏住民の地方移住への関心の高さについて教授いただいた。 ・地方移住に関心を示している首都圏住民の方々を、当市へ呼び込むためにはどうしたらよいかを、話し合った。 | |
| 支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい) | ・これまで当市が取り組んできた「移住支援」の考え方と、「このまま首都圏に住むか、地方に移住するか」という選択肢しか認識していなかったため、移住を考える方々にとってハードルが高くなってしまっていた。しかし、アドバイザーから提案いただいた「テレワーク」の考え方を導入することで、必ずしも「首都圏か地方か」という二者択一にこだわる必要はないという考えが芽生えてきた。 ・移住者を増やすことができれば市としてありがたいことであるが、今すぐ「移住」するのは困難な方々には様々な形で当市に関わりをもていただく「関係人口」の考え方も重要になってくるものと感じた。 | |
| 具体的な成果物 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい。 | ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない |
| 改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください) | ・「地方移住」、「地方でのテレワーク」について、北秋田市が他自治体と差別化を図るためにはどのような方策が考えられるかを、さらに掘り下げて検討を行う予定である。 | |
| アンケートの内容と分析結果 | 講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 なし | |
| 5-3. 今後の計画 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい | ③現段階では課題・問題が残っているため未定 |
| 事業の最終的な目指す姿 | | |

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

